

平成13年度 文学部 授業計画表 [syllabus]

地史東4選

教倫中国4共通選

科目名	文化人類学研究	4単位	(ふりがな)	なが	さわ	とし	あき
(英文名)	Research in Cultural Anthropology		担当者	長	沢	利	明

授業のねらいと概要:

人間と文化との関わりやその意味について、総合的かつ具体的に考えていく。そのために取り上げてみる諸テーマは、言語・社会構造・宗教儀礼・生産経済・生態環境などの、さまざまな諸領域におよぶ。さまざまな側面から上記の課題へのアプローチをこころみる。この作業を通じて、文化人類学的な物の考え方や精神、研究方法・分析視角などを学ぶ。

教科書と参考図書:

テキストは用いない。その代わり、毎回、教室でプリントを配布する。そのプリントがいわば本講義のテキストである。

評価法 : 前期試験(レポート)、後期試験(有り)

【授業計画】

回数	授業内容とそれに必要な準備	回数	授業内容とそれに必要な準備
第1回	初回として全体のプロローグを述べる。人類学の諸分野についても解説する。	第16回	宗教人類学的な観点から、民間信仰・自然宗教の文化的特色を把握する。アニミズム・トーテミズム・シャーマニズムの基本問題にも触れる。
第2回	文化人類学の研究対象であるところの「文化」を概念づけてみる。文化とは一体何か、どのような問題がそこに内包されているのかを考える。	第17回	多民族・多文化共生のフィールドとして重要な台湾の民族問題を題材に、多文化主義・相対主義の可能性を探ってみる。
第3回	言語人類学的な側面から人間の言語文化をとらえてみる。特に日本国内の方言についてみられる諸特徴から、日本語の言語形成史を探る。	第18回	全世界的同時代性を持つ、文化変化・社会変化の問題にアプローチするため、台湾の少数民族であるアミ族を例にとり、母系制の変容過程を分析する。
第4回	フォーク・タクゾノミーの観点から、民族植物学を概説する。文化と環境認識の基本問題をそこで考える。	第19回	同じく台湾のブタン族を例にして、父系制社会の変容プロセスをとらえてみる。少数民族社会の将来像を考えてみる。
第5回	世界の言語文化の概観と、言語と文化との相互関連の問題をとらえてみる。	第20回	国内の少数民族問題としてあるアイヌ問題を考察する。アイヌ社会の現状、差別の実態、法的な諸問題について考察する。
第6回	日本国内の、さまざまな生業集団を「非常民」的観点からとらえてみる。日本の民俗社会の総体としての成り立ちを考える。	第21回	国内における地域主義の実践の場として、大きな可能性を持つ沖縄地域の文化問題を考察する。琉球文化の概観についても把握する。
第7回	社会人類学的な側面から、親族構造、システムの全体像を把握する。母系制・父系制・双系制社会の諸特徴を述べる。	第22回	在日アジア人労働者のかかえる社会問題から、文化間摩擦やエスニシティの実態を考察する。
第8回	イニシエーションと文化の関係をとらえてみる。通過儀礼の持つ意味、その現代性についても考察する。	第23回	全体のエピローグとして、文化人類学の可能性・将来像について述べる。年間の講義を振りかえって総合的などりまとめをおこなう。
第9回	通過儀礼の最終局面としての人間の死というものを、文化的にとらえる。葬制と墓制の基本問題、その現代的側面についても考察してみる。	第24回	(予備)
第10回	農業の起源、農耕文化の成り立ちを考察する。農耕文化の伝播とその定着に関わる実態をとらえる。	第25回	(予備)
第11回	焼畑農耕文化の源流を探るうえで無視することのできない、日本の奈良田の焼畑農業を概観し、その特色を抽出する。	最終回	後期試験
第12回	環境人類学・生態的人類学的な観点から、焼畑農耕をとらえてみる。長野県秋山郷・熊本県五木村の事例研究をこころみる。		
第13回	焼畑農業と生態的諸条件との関係をさらに追求し、山梨県奈良田の事例研究を通じて考察してみる。		
第14回	日常的な生活空間の中につらぬかれている文化の地域性を考察する。住居の諸形態とその発達史についても述べる。		
第15回	年間儀礼の構造的側面を考察する。回帰する可逆的時間軸としての「文化の時間」概念のもとに儀礼の構造的特徴を抽出してみる。		